



自由通路完成が待たれる、JR北伊予駅



加藤 博徳 議員

北伊予自由通路は誰が起案し、誰が締結印を

当時の町長が判断し、副町長の代決により押印

問

①北伊予自由通路はなぜ当初の西口からの通路要望を変更し誰が起案しJRとの協議書に議会の議決前に締結印を誰が押印したか。

まちづくり課長、町長
西からの出入りが無理とわかったので現橋の継ぎ足し案を県から提案され、協議の結果現在の自由通路に当時の町長が判断した。

JRとの締結印は、JRとの協議文書にあり、平成25年7月24日付けは副町長の代決により押印した。
契約を締結するものではない。

北伊予自由通路に係る周辺事業の負担金は

町の負担はあるが、JR四国や地元の負担なし

問

①町の負担する総工事費、JR四国の負担は。

まちづくり課長、町長
①北伊予自由通路の総工事費は、4億820万7千円。JR四国の負担金はなし。

③伊予駅自由通路の年間維持管理費は、エレベーターの保守管理、点検に191万6千円、電気使用料29万5千円で計221万千円を見込んでおり町が支払う。

②鶴吉地区で実施している水路事業や町道東170号線の総工事費及び地元負担金は。

②水路改修工事4件で総工事費2億4993万4978円、地元の負担金はなし。

④車両基地貨物駅ができると60本余りの列車の通行量となるため、現在の1.5倍程度の遮断時間の増加となる。

③自由通路の保守点検を含む年間維持費と負担先は。

町道東170号線の総事業費は、2億2418万6601円で地元の負担金はなし。

④踏切の遮断時間は。